

# 第1回 物語文(1)

## ことばの学習

### 漢字の組み立て

漢字には、計(言十十)や語(言十吾)や草(艹十早)のように、左右や上下に分けられるものがあります。このとき、「計」と「語」に共通する「言」のような部分を「部首」といいます。

○へん——漢字の左がわにつく。

	根	使	池	秋	持	級	話
	きへん	にんへん	さんずい	のぎへん	てへん	いとへん	ごんへん

●たとえば「根」の左がわの「木」は、「きへん」といい、漢字の意味が「木」に関係があることをしめています。「イ」は「にんべん」で「人」に関係があることを、「シ」は「さんずい」で「水」に関係があることをしめています。

○つくり——漢字の右がわにつく。

	列	助	歌	部	頭	形
	りつとう	ちから	あくび	おおぎと	おおがし	さんづくり

○かんむり——漢字の上につく。

	花・草	安・家	雲・電	算・答
	くさかんむり	うかんむり	あめかんむり	たけかんむり

○かまえ——漢字をかこむ。

	国	区	開
	くにがまえ	かくしがまえ	もんがまえ

○にょう——漢字の左から下をかこむ。

	起	近・送	建
	そうにょう	しんにょう	えんにょう

○たれ——漢字の上と左をかこむ。

	原	広	病
	がんだれ	まだれ	やまいだれ

○あし——漢字の下につく。

	点	先	思
	れつか	ひとあし	こころ

(1) 次の部首をもつ漢字をあとからえらび、それぞれ記号で答えなさい。

- ① ちから
- ② さんずい
- ③ まだれ
- ④ うかんむり
- ⑤ こぎとへん
- ⑥ くにがまえ

ア	店	イ	図	ウ	院
エ	動	オ	海	カ	守

④	①
⑤	②
⑥	③

(2) 次の①と②の漢字を一つずつ組み合わせて、正しい漢字を四つ作りなさい。(同じ漢字を二度使わないこと。)

- ① 系竹
- ② 寺周
- 羽言
- 氏白


# 第2回 物語文(2)

## ことばの学習

### 漢字の読み方

- 「音読み」と「訓読み」

漢字には「音読み」と「訓読み」があります。漢字が中国から日本に来たときは「音読み」でした。日本のことばにあわせて、あとから漢字に読み方をつけたものが「訓読み」です。

例 冬 音読み：トウ  
訓読み：ふゆ

例 柱 音読み：チュウ  
訓読み：はしら

漢字の中には、「音読み」だけ、「訓読み」だけの漢字があります。

- 「訓読み」だけの漢字

例 貝・畑など、たいへん少ない。

- 「音読み」だけの漢字

例 科・地・汽・オ・台など、たいへん多い。

- とくべつなきまりをもつ読みがな

「ぢ」「づ」と「じ」「ず」の使い分け

- 「じ」「ず」はふだん使われます。

例 時間・地面・大豆・図画

● 「ぢ」「づ」はとくべつなときに使います。たとえば、二つのことばがいっしょになって一つのことばになったり、同じ音がつついてあのことばがにごったりするときに使います。

例 鼻＋血 → 鼻血 (はなち) 三日十月 → 三日月 (みかづき)  
縮む → ちぢむ 続く → つづく

漢字の読みがなはだいたい発音どおりに書きますが、それにあてはまらない、次のような例があります。

「お」と「う」の使いわけ

例 王子 → おおじ → おうじ 光線 → こおせん → こうせん  
通る → とおる → とおる 氷 → こおり → こおり

次の漢字は「え」ではなく、「い」と書きます。

例 先生 → せんせい 例 → れい

- (1) 次の漢字の読みを書きなさい。

- ① 写す ② 写真 ③ 投げる
- ④ 投手 ⑤ 決める ⑥ 決意

④	①
⑤	② す
⑥	③
める	げる

- (2) 次の漢字の読みを書きなさい。

- ① 目次 ② 東京 ③ 水泳

①	②	③